

鳥インフルエンザには、 正しい知識と万全の防疫対策。

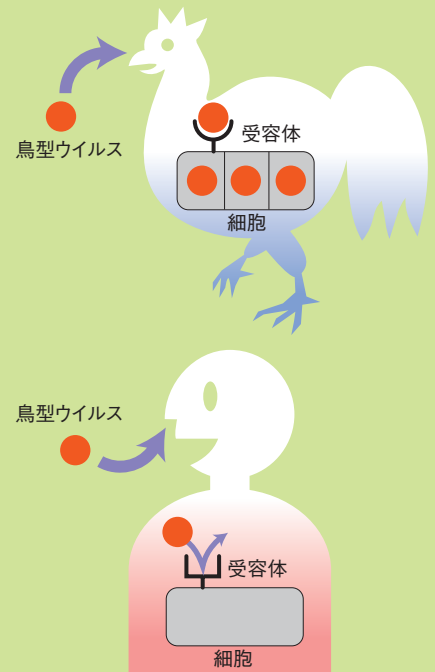
食品安全委員会委員 見上 彪

今年もまた人や動物(鶏、豚、馬など)のインフルエンザのシーズンがやって来ました。人と鶏のインフルエンザは分類学的に同じウイルスによって起こる病気ですが、原因ウイルスのタイプ(亜型)がそれぞれ違います。またインフルエンザは呼吸器を介して起こり、食中毒(例:ノロウイルス)のように原因ウイルスで汚染された食材・食品を摂食しての感染は確認されていません。更に日本のような生活環境下で鳥インフルエンザが人間に感染し、流行するリスクは無視しうる程、極めて低いものです。その理由として、①生きている鶏やアヒルが市場で売られていない。②豚、アヒル、鶏が同じ所で飼育されていない。③養鶏場に近づいたり、鶏に触れる機会が少ない。④ウイルス自体が熱や酸に弱い、などが考えられます。加えて、我が国で販売されている鶏肉・鶏卵は、食中毒予防の観点から洗浄・消毒されています。従って、前回の鳥インフルエンザ発生時のように、神社仏閣、小学校、幼稚園などで飼われている鶏、チャボ、愛玩用小鳥が飼育放棄されたり、量販店、スーパーなどで売られている鶏肉や

鶏卵が棚から撤去されることは、極めて合理性に欠く、非科学的な行為であり、慎むべきと思います。恐怖心を煽るのではなく、科学的に正しい知識を国民・消費者に伝えることが大切です。さもなければ、結果的に国家・国民の損失となりかねません。

WHO(世界保健機関)の発表によると鳥インフルエンザではタイ、ベトナムで32人の方が死亡し、アジアでは1億2千万羽以上の家禽が死亡または殺処分されました。(日本では27万5千羽程度)それらの国々ではどうして人が感染死したのでしょうか?これは、人々が感染鶏の分泌物や糞に含まれる極めて濃厚なウイルスを吸引して、感染したものと考えられます。幸い、患者から分離されたウイルスは鳥型であり、感染者から健康者、すなわち人から人への感染は確認されていません。WHOが最も恐れていることは、今回、アジアで流行している鳥インフルエンザウイルス(H5N1亜型)が、鳥型から人型に変わることです。この変換には、鳥型ウイルスが人型に変異を起こすか、鶏と人のウイルスが豚に同時に感染し、遺伝子組換えを起こして、人に対する

感染性を獲得する、という経路があります。これが人の間で拡まって、最終的に世界的な大流行を起こすことが、最も危険なシナリオなのです。これを回避するには、我が国では当面、病原性の強弱に関わらず、鶏での流行を抑えることが重要です。そのためにも近隣国での発生動向に注意し、防疫対策に万全を尽くす必要があります。



●通常、人と鳥では原因ウイルスのタイプが違うため、濃厚に接触しない限り、鳥から人に感染することはないとされています。

食の安全への不安・疑問から情報提供まで、皆様のご質問・ご意見をお寄せください。



食の安全ダイヤル **03-5251-9220・9221**
●受付時間: 10:00~17:00/月曜~金曜(ただし祝日・年末年始はお休みです)

ご意見等は電子メールでも受け付けています。ホームページからアクセスしてください。

食品安全委員会ホームページ <http://www.fsc.go.jp/>

内閣府 食品安全委員会事務局

〒100-8989 東京都千代田区永田町2-13-10 プルデンシャルタワー6階